

令和元年度 調布市立第八中学校 学校評価報告書				様式1
領域	自己評価結果の概要 * ()内は昨年度との差	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度 優先順位
学力向上	◇基礎的な学習が身についている 生徒84%(+3)、保護者60%(-8) ◇家庭学習の習慣が身についている 生徒54%(±0)、保護者47%(+3) ◇先生は分かりやすい授業につとめている 生徒91%(+3)、保護者88%(-2) ○授業規律を確立し、基礎的・基本的事項の確実な定着が図れた。 ○教員の指導力の向上を図り、生徒一人一人の学習意欲を向上させた。 ○家庭学習の習慣をつけさせることが今後の課題である。	○家庭学習は、家庭での生活が大切になるので、そのためにも、小学校と連携し、家庭学習の習慣をつけさせる手立てを検討してはどうか。 ○夏休みの補習など、教員が熱心に教えている姿が印象的だった。 ○学校公開の際に、先生方のスキルの高さやICT等を活用した授業の工夫がみられ、学校評価の結果に繋がったと考えられる。 ○土曜学習部の活用が基礎学力の定着に繋がっている。	○定期考査前自習教室(年4回・8日間)、土曜学習部(年20回)を継続することで、主体的に探究する力を養う。 ○数値目標を明確に持たせた上で、漢字検定(年3回)、英語検定(年3回)の受検を促す。 ○国、都、市の学力調査の結果や生徒による授業評価アンケートを実施し、指導上の課題を明確にして指導力の向上を図る。 ○指導と評価の一体化、学習意欲の向上を図る評価をより工夫・充実させる。	A
健全育成	◇学校のきまりを守り規律ある生活をしている 生徒94%(+3)、保護者87%(-2) ◇他人に対する思いやりの心がある 生徒87%(+6)、保護者94%(-1) ◇あいさつがよくなる 生徒87%(+8)、保護者85%(+2) ○生活指導・進路指導・安全指導の充実を図り、豊かな心を持ち、自他を尊重する力を養えた。 ○基本的な生活習慣を定着させた。 ○発達段階に応じた、系統的・計画的なキャリア教育が推進できた。	○あいさつがしっかりとできていて気持ちがよい。継続して指導にあたってもらいたい。 ○教員のスキルが高く、生徒個々の悩みに親身になり対応をしている。 ○生徒数が少ないので、生徒一人一人に目が行き届いていて、丁寧である。 ○教員が同一步調で生活指導を進めている。 ○地域と連携したあいさつ運動週間が有効であった。 ○キャリア教育の中で、他者と関わることやあいさつの大切さについて学ぶことができている。	○指導の重点を共通理解し、問題行動に対しては関係諸機関と連携し、ケース会議等を迅速に実施する。また、毅然とした指導ができる教員を育成する。 ○2年の職場体験(生徒約80名分の5日間)の受入事業所の確保に向けて、PTAや関係機関と一層の連携を図る。 ○特別支援COやSCと連携した、きめ細やかな教育相談を展開する。また、特別支援教育校内委員会の内容や実施時間等を検討する。	A
健康・体づくり	◇健康な生活を送り基礎体力をつけている 生徒76%(+2)、保護者82%(-2) ◇安心・安全な学校がつけられている 生徒91%(+4)、保護者94%(-2) ○オリンピック・パラリンピック教育や部活動等により、体力の向上が図れた。 ○薬物乱用防止教育、食育等を充実させ、健康増進、食物アレルギー事故防止の意識啓発が図れた。 ○体力向上週間の参加率が全校の30%であった。次年度は、2倍の参加率を目指す。	○以前は、体力向上週間の参加率がよかったが、なぜなのだろうか。 ○体育の授業でのプロダンサーによるダンス指導はよかった。次年度のオリパラ予算次第では、講師の派遣は厳しくなるのでは。 ○食物アレルギーに対する、教職員の意識の高さが見られた。 ○体力向上を目指した取組を、今後も継続することを願う。	○8月のオリンピック観戦等を活用し、心身ともに健康で、社会に貢献できる力を養う。 ○部活動、水泳教室、ダンスオーディション、体力向上週間での持久走の継続実施により、運動量を確保する。 ○校内通級教室拠点校としての運営方針や指導スキルを学校経営に活用する。 ○生徒会活動(保健給食委員会等)を通して、健康増進や食物アレルギー事故防止に対する生徒の意識を向上させる。	B
保護者・地域との連携	◇便り等で学校の様子を外部へ伝えている 生徒80%(+2)、保護者94%(+1) ○保護者・地域との連携を深め、外部へ開かれた学校づくりができた。 ○保護者、地域の小学校、地域の健全育成団体等との連携を深め、学校への協力体制を構築できた。	○地域のイベントに今以上に中学生を参加させてほしい。 ○八中生のよさをもっと外部に発信したほうがよい。 ○教育活動に地域の人材を活用し、特色ある教育活動を展開するとよい。 ○学校は保護者や地域に対して、丁寧な対応をしている。 ○アナウンス電話になったことで学校へ連絡がつかず、戸惑った保護者がいた。 ○地域学校協働本部が十分に機能しており、学校とPTA・地域を繋げる役割を担っている。	○今後とも、保護者・地域と連携・協力しながら、教育活動の充実を図り、小中連携を推進する。 ○ホームページや学校だよりにより、学校情報を外部へ発信することを継続する。また、健全育成地区委員会やまちづくり協議会で学校だよりを配布し、学校の様子を伝える。 ○地域学校協働本部の体制をより組織な形へと強化する。	B
特色ある教育活動	◇人間関係が上手く出来ている 生徒95%(+1)、保護者89%(-2) ◇学校行事に積極的に参加している 生徒82%(+2)、保護者84%(+4) ◇積極的に部活動に参加している 生徒84%(+12)、保護者86%(+13) ○学校行事等の体験的な活動を通して、創造力を育み、自己有用感を高めた。 ○学校行事等のねらいを明確にし、一層の充実を図り、生徒一人一人が活躍できる場面を与えた。 ○生徒のニーズに合った部活動を検討する必要がある。	○少ない生徒数ながら学校行事が盛り上がっている。 ○人数が足らず大会に参加できない部活動がある中で、日ごろから熱心に活動している様子が見られる。 ○学校行事が充実している。 ○八中ならではの特色のある部活動を存続させてほしい。	○部活動顧問の異動によって、開設状況や活動内容が低下することがないよう、積極的に外部指導員を活用するなどの対策を講じる。 ○行事を精選する中で、体育祭、学習発表会、合唱コンクール、校外学習、移動教室、修学旅行等を通して、生徒の自主的な活動を充実させるとともに、生徒一人に一役を与えていく。	B